

学位被授与者氏名	野中 美和 (のなか みわ)
論文題目	近代化産業遺産を活用した ESD 実践とその展開 － 大牟田における産業遺産学習を事例に －
論文審査結果の要旨	<p>この論文は、産業遺産学習を、地域歴史学習による地域の再認識・愛着形成といった（狭義の）学習主体ではなく、地域づくりへ向かう行動主体の形成への転換（推進）動機を明らかにしようとした実証分析として評価できる。</p> <p>住民自身が、地域の過去・現在を未来へとつなぐ意識と行動によって、地域生活が豊か（誇りと地域に根を張る）になり、地域関係が構築されていくことを、意識の変容（広義の学習過程）として捉えている。このことは、地域歴史学習と地域づくりをつなぐ、産業遺産学習の展開可能性を、地域認識の転換点に着目することにより明らかにしたといえる。</p> <p>地域認識の内容や、愛着と誇りの区別、実践の構造・展開については課題が残っているものの、本論文の課題については十分な実証分析がなされており修士論文として評価する。</p> <p>平成 27 年 3 月 2 日に、北九州市立大学都市政策研究所会議室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>